

シェルのエネルギー変革シナリオ

木原 正樹 (きはら まさき)¹ 角和 昌浩 (かくわ まさひろ)²

要約 国際エネルギーメジャー企業であるシェルが、50年にわたって継続するシナリオプランニング活動を、歴史的に振り返る連載を書き継いでいます。今回で気候変動問題を大テーマに取り上げた5回シリーズを終えます。だいたい2007年ころ以降、2021年秋まで、ほぼ15年の歴史を考察しました。特記すべきは、気候変動・地球温暖化対策はエネルギー起源のCO₂排出抑制を主とする故、近年シェルが公開するシナリオ作品が、とりわけ対外広報戦略との連携を見せている点です。今回投稿の前半部分は、シナリオプランニングの仕事で角和昌浩の後継となった木原正樹が執筆します。ここでは最新のシェルグローバルシナリオ「The Energy Transformation Scenarios (エネルギー変革シナリオ 2021)」を紹介しています。木原もロンドンのシェルグループシナリオプランニング部門で2年余、働いた経験があります。後半は、角和が5回シリーズを総括した論考を書きました。

1. はじめに

今回は、最新のシェルグローバルシナリオ「The Energy Transformation Scenarios (エネルギー変革シナリオ 2021)」³を紹介します。「エネルギー変革シナリオ 2021」は、第4回で紹介した「ニューレンズシナリオ 2013」以降、実に8年ぶりとなる全面的なグローバルシナリオの刷新です。そのシナリオ枠組みは、「ニューレンズシナリオ 2013」からの橋渡しを務めた「コロナ禍シナリオ」を踏襲しながらも、新たなエッセンスとメッセージが込められています。そしてシェルのエネルギー分析専門チームによるデータも豊富。パリ合意とコロナ禍を経て、シナリオチームは長期未来世界の可能性をどう洞察し、どのようなメッセージを世界に伝えようと試みたのか。公開された100頁超に渡る原典を読み解いていきます。そして最後に、5回に渡った本連載のまとめをします。

2. 「エネルギー変革シナリオ 2021」

2.1 現状認識とシナリオの分岐点

本シナリオのセクション1には、シナリオチームの現状認識がこう記載されている(筆者意識。以下同)。「コロナ禍は、世界中ほぼ全ての社会・経済を巻き込む大きなターニングポイントとなった。グローバルシステムに内在する緊張関係と脆弱さが露わになってしまったが、コロナ禍によって政策や行動がシフトした結果、未来の新たな可能性の扉もまた開いたのだ」。

国際政治や世界経済への現状観察を深く論じた「ニューレンズシナリオ 2013」とは大きく異なり、「エネルギー変革シナリオ 2021」の出発点は、コロナ禍。本シナリオによると、危機を意味する英語の「crisis」は、元々古代ギリシャ語の「krisis」に由来しており、「krisis」の意味は「decision 決断」です。コロナ危機に直面する社会が今後、どのような選択を decision するのかによって、異なるシナリオ世界が現れ得る。コロナ禍におかれた社会の選択が未来世界のあり様を変えていく、というシナリオ枠組みは、「コロナ禍シナリオ 2020」と同じです。

ただし、「コロナ禍シナリオ 2020」の射程は、2030年まででした。

本シナリオでは、射程をその先数十年に延ばし、2100年までのエネルギーモデルを論じなければならない。果たして過去1~2年の出来事に過ぎないコロナ禍が、この先数十年の長期に渡る社会の転換点になるのだろうか？ このような批判に耐えるシナリオ枠

¹ 木原正樹 (きはら まさき)

株式会社フューチャーネス
futurenessltd@gmail.com

² 角和昌浩 (かくわ まさひろ)

元東京大学客員教授
abikokakuwa@gmail.com

³ Shell (2021) The Energy Transformation Scenarios <https://www.shell.com/energy-and-innovation/the-energy-future/scenarios/the-energy-transformation-scenarios.html>